

綾道

あやんつ

みやこ
宮・新里コース



綾道

あや
ん
つ

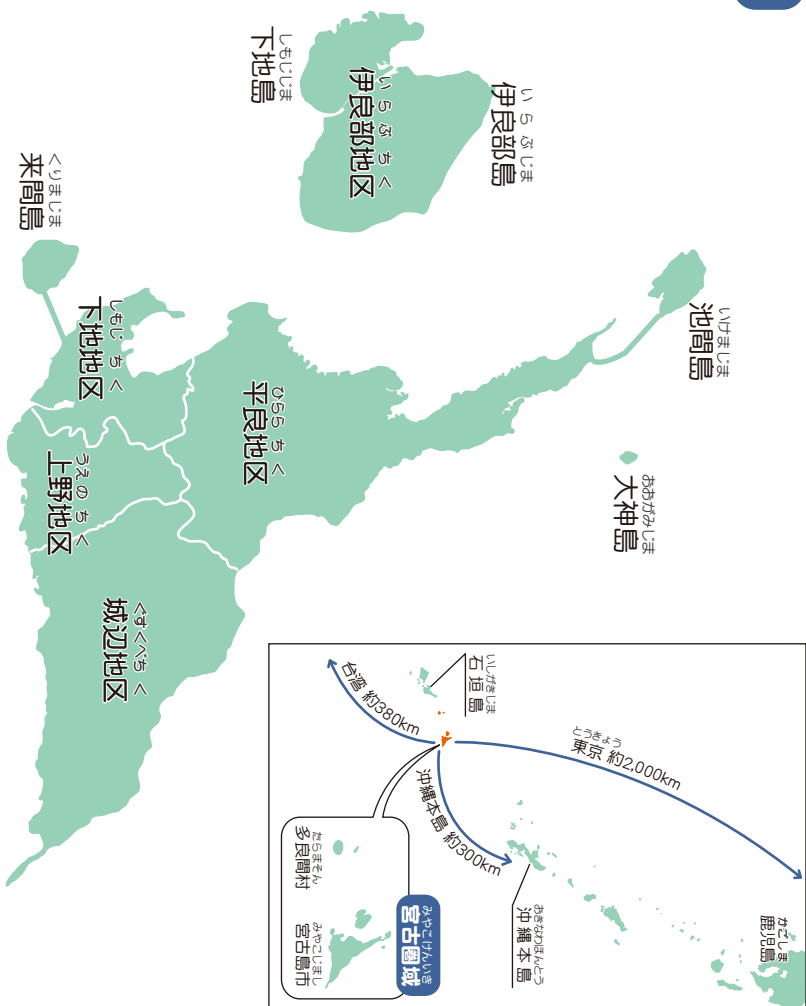
「あやんつ」とは、みやこに宮古島のことばで
「趣のある道」という意味です

みやこじまし いち めん せき 宮古島の位置と面積

宮古島は大小6つの島
(宮古島、池間島、大神
島、来間島、伊良部島、
下地島)で構成されてい
ます。

総面積は204km²、人口
約5万5,000人で、人
口の大部分は平良地区
に集中しています。

島全体がほぼ平坦で、
山岳部や大きな河川も
なく、生活用水などの
ほとんどを地下水に
頼っています。



綾道（宮国・新里コース）



宮古島市の位置と面積 ^{い ち めんせき}	02
もくじ	03
散策 ^{さんさく} map	04
テマカ城跡 ^{じょうせき} 市指定史跡 ^{し していしせき}	06
宮国 ^{みやぐに} の大綱引き ^{おおつな ひ} 市指定無形民俗文化財 ^{む けいみんぞくぶん かざい}	07
アマ井 ^{がー} 市指定史跡	08
「降り井」はどうやってできたの？ / 「雍正旧記」って？ ^{う がー}	09
好善ミガガマ御嶽 ^{こうじん} 市指定史跡 ^{う たき}	10
「玉城普門好善の話」 ^{たまぐすくふ も こ ぜ はなし}	09
好善ミガガマ御嶽の植物群落 ^{しょうくふくぐんらく} 市指定天然記念物（植物） ^{てんねん きねん ぶつ}	11
アナ井 市指定史跡	12
ぶち歴史比較年表 ^{れきし ひ かくねんひょう}	13
ドイツ商船遭難之碑 ^{しょうせんそうなんの ひ} 市指定史跡	14
エドワルド・ヘルンツハイム船長の航海日記 ^{せんちやう こうかい にっき}	15
スカブヤー御嶽 ^{ゆうけい} 市指定有形民俗文化財	16
宮古島の龍宮伝説 ^{りゅうぐうでんせつ}	17
キャーザ井 市指定有形民俗文化財	18
元島と、様々な説 / 「倭寇」ってなあに？ ^{もとじま さまざま せつ わ こう}	19
新里の豊年祭 ^{しんざと ほうねんさい} 市指定有形民俗文化財	20
ツマグロゼミ 市指定天然記念物（動物） ^{どうぶつ}	21
御船の親御嶽 ^{う くに しゅう} 市指定史跡	22
御船の親御嶽の由来 / 御船の親の妻ブナコイの話 ^{ゆらい つま}	23
文化財の体系図 ^{ぶんか ざい たいけいず}	24
それぞれの文化財の一例 ^{いちれい}	25

ひらら みやこくこうへ
←平良・宮古空港へ

390

じょうせき
テマカ城跡 p06

みやぐに おあつな ひ
宮国の大綱引き p07

1km

202

ぜんちようやく
コース全長約7km
しょうじ かん くるま じ かん
所要時間：車で2時間

※地点ごとの距離はおおよそです。

こうぜん う たき
好善ミガガマ御嶽

しょうびつぜんらく
の植物群落 P11

こうぜん う たき
好善ミガガマ御嶽 P10

ガー
アナ井 P12

950m

235

650m

200m

うえの
ドイツ文化村

1km

はくあいぎょう
博愛漁港

ガー
アマ井 p08

しょうせんそう なん の ひ
ドイツ商船遭難之碑 P14

ツマグロゼミ P21

190

新里



160m

300m

しんざら ほうねんさい
新里の豊年祭 P20

うに しゅう う たき
御船の親御嶽 P22

1 km



新里の豊年祭

ガー
キャーザ井 P18

ひがし へんな ざき
→ 東平安名崎へ

う たき
スカプヤー御嶽 P16

235

1.7km

宮国の大綱引き



じょう せき

テマカ城跡



城^{ぐすく}辺^べ字^{あざ}保良^{ぼら}の東^{ひがし}平安^{へんな}名^な崎^{さき}から豊見親^{とうゆみや}が石^{いし}を投^なげて一^{いち}夜^やのう
ち^{いしがき}に石垣^{きず}が築^{でんしょう}かれたという伝承^{たいしょう}があります。大正^{ころ}の頃^{たか}まで高
さ^{しゃく}6~7尺^{そんざい}(1.8~2.1m)もの石垣^いが存在^{せん}したと言^ごわれます
が、戦^{せん}後の土^ど木^{ぼく}工^{こう}事^じの材^{ざいりょう}料^{りょう}としてほとん^もど持^もち去^さられてしま
い^{なか}まし^うた^{たき}。中^{さいしん}の御^な嶽^うの祭^{さいしん}神^{しん}は、ヤマトガムキ^よリウヌスと呼^よば
れ^くてお^ばり、久^く場^か嘉^あ按^じ司^しとた^{かつ}び^{せん}た^ちび^{から}合^お戦^よするも、力^{はい}及^しば^しず敗^は死^い
し^{つた}た^うい^えう^の伝^ひえ^ともあ^ひり^とます。上^う野^のの人^{ひと}々^{びと}は「テマカマキ」と
呼^よん^いでい^いま^いす^みが、牧^{ぼく}場^{じょう}のマ^まキ^きであ^ある^きのか、一^い定^{てい}範^{はん}圍^いを意^い味^みし
たマ^まキ^きであ^ある^きのかは明^あら^きか^きではあ^あり^きま^き
せ^きん。郷^{きょう}土^ど史^し家^かの稲^{いな}村^{むら}賢^{けん}敷^ふ氏^しが「倭^わ寇^{こう}」
の隠^{かく}家^{れが}ら^せしい^せつ^はっ^びょう^いご^ごと^いった^い説^ごを^い発^い表^いし、以^い後^ご
テマカ城^{めい}跡^し名^しで知^しら^しれてい^しま^しす。



みや ぐに おお つな ひ

宮国の大綱引き



みや ぐに ぶ ら く きゅうぼん ぎょうじ ひと き げん ふ めい のう
宮国部落の旧盆の行事の一つですが、起源は不明です。農
さく ぶつ しゅうかく いわ き がん う がんづな えきびょう りゅうこう
作物の収穫を祝い祈願する御願綱として、また疫病が流行す
さいやく お はら と き かんばつ つづ あま こ
ると災厄を追い払うために、時には旱魃が続くと雨乞いのた
め、あるいは農作物の豊凶を占うなどといった意味がある
ほうきょう うらな い み
と伝えられています。宮国の大綱引きの特徴は、他地域の綱
つた とくちょう た ち いき
引きにはない強い団結力を元にした勇壮さにあり、躍動感に
つよ だんけつりよく もと ゆうそう やくどう かん
溢れ、祖先のたくましい生活力を伝える上で貴重な無形の民
あふ そ せん せいかつりよく うえ きちよう む けい みん
俗文化財です。また、宮国のクイチャーは、女性の歌の時に
ぞくぶん か ざい じょ せい うた
は男性が、男性の歌の時には女性が踊
だん せい おど
るという特徴をもち、歌詞と踊りも、
とう じ ふう ぞく しゅうかん し げい
当時の風俗や習慣を知る貴重な民俗芸
のう
能です。



ア^{がー}マ井



「^{よう せい きゅう き}雍正旧記」には「^{がー どう せん}あま井、洞井
^{くつ ねん すう ふ めい}であって掘年数不明」と記されてお
^{ひがし}り、東の^{みやぐにじゅう みる}アナ井とともに、宮国住民
^{き ちよう すい し げん}の貴重な水資源となっていました。

^{ねん}1956年から^{ころ}1962年頃まで、ポンプ
^{し しょう きゅううえ の そん ない かん い すい どう}を使用して旧上野村内に簡易水道と
^{きゅう すい そん みる せい かつ こうじよう おお}して給水し、村民の生活向上に大き
^{やく わり}な役割をはたしていました。



「降り井」はどうやってできたの？

①



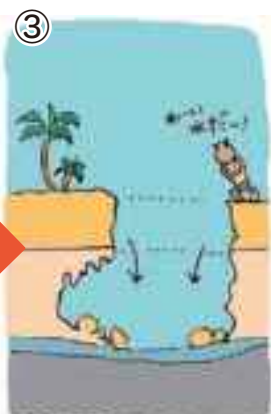
宮古島の地質は、
島尻マーヅ、琉球
石灰岩、島尻層群
泥岩でできていま
す。

②



水に溶けやすい琉球
石灰岩が雨水などで
浸食され、地中に空
洞ができます。

③



浸食が進み、やがて地
表が崩れ、陥没ドリー
ネという窪地ができま
す。一番下の泥岩層は
ほとんど水を通さない
ため、水がたまります。

「雍正旧記」って？

「雍正旧記（1727年）」は、宮古
島で最も古いと言われている文
献「宮古旧記類」の一つです。この旧
記類は他に、「御嶽由来記（1705
年）」「宮古島記事（1752年）」「宮
古島記事仕次（1748年）」「宮古島
在番記（1780年）」などが知られて
います。

特に、「御嶽由来記」「雍正旧記」
「宮古島記事」は、琉球王府の歴史
書を編集する事業の資料として報
告されたもので、主な内容は、宮古
島の各御嶽・祭神とその由来、各
村番所の所在地、井川の名称・掘削
年、島の産物、歌謡などについて記
されています。

こう じん う たき 好善ミガガマ御嶽



う たき みやくに しゅうらく
この御嶽は宮国集落
ぜん たい
全体の御嶽です。『宮
き じ し つぎ
古島記事仕次』にこの
さいしん
御嶽の祭神好善ミガガ
く ば か あ
マについて「久場嘉按
じ じょ し ふ も こ ぜ
司の女子普門好善が
こと だい
事」と題する記事があ

うえ の
ります。上野では「コージンミガガマ」と呼ばれ、ミガガマ
や しき あと つた
御嶽はミガガマの屋敷跡だと伝えられています。

たまぐすく ふ も こ ぜ 玉城普門好善の話

むかし ふ も こ ぜ うつく むすめ たまぐすく りゅうきゅう しょうにん あいだ おとこ
昔、普門好善という美しい娘がおり、玉城という琉球の商人との間に男の
こ ひとり もう し こと すうねんかん や え やま わた
子を一人儲けました。仕事で数年間八重山に渡っていた玉城がようやく島に
もど つま ま いえ のぞ よ な かのじょ すがた み
戻り、妻と子の待つ家を覗くと、夜泣きをする子をあやす彼女の姿が見えま
した。そのとき、泣き止まぬ子にむかって、「流浪人の子がなぜ夜泣きをす
るのか」と普門好善が叱りつけたのです。これを聞いた玉城は「私は公用で
たび しか なに こと おこ
旅をしているのに、流浪人とは何事か！」と怒り、子どもを奪い取ってその

まま琉球に戻ってしまいました。普門好善はこ
のできことを嘆き、恨みました。そのとき、おお
つ なみ お よ とうなん かいがんばた むらむら
津波が押し寄せ、東南の海岸端にあった村々は
お なが い かい
押し流されてしまいました。普門好善の遺骸は
かわみつ むら とうほう ほうむ つた
川満村の東方に葬られたと伝えられています。



しよく ぶつ ぐん らく

好善ミガガマ御嶽の植物群落



こう じん つつ こ しよくぶつぐん らく う たきりん
好善ミガガマ御嶽を包み込む植物群落で、御嶽林であるため
なが あいだかい はつ ほ こ なん がん ち いき し ぜん
に長い間開発などから保護されており、宮古島南岸地域の自然
み ちゅうおうぶ はい しょ
植物を見ることができます。植物群落のほぼ中央部に拝所があ
り、拝所の周囲には胸高直径60～80cmの台湾エノキ、
せ い い く しよくせい と かこ
40cmのクロヨナが生育し、この自然植生を取り囲むようにヤ
ンバルアカメガシワやオオバギなどの二次林が成立していま
に じ りん せいりつ
す。拝所への参道沿いは下草刈りがときどき行われています
さん どう ぞ したくさ か おこな
が、自然植生へ移り変わる潜在力を秘めており、御嶽中央部の
う つ か せんざいりよく ひ
台湾エノキ林と共に、地域の自然環境を知る手がかりと
とも かんきょう し て
なっています。

ガー
アナ井

「^{よう せい きゅう き}雍正旧記」（^{ねん}1727年）に、“東川、洞川だが掘削年数は不明”と記されています。

宮国村の番所跡の東に位置しているので、^{とう じ やく にん}当時は役人たちによって「^{あがずがー}東井」と呼ばれていたようです。^{すい どう ふ きゅう}水道が普及するまでは、^{じゅうみん せい かつ ささ き ちよう}宮国住民の生活を支える貴重な水資源で、^{すい し げん ひる よる}昼も夜も、ひっきりなしに^{ひと あつ みず く せん たく あ}人が集まり、水汲みや洗濯、水浴びなどでにぎわっていました。





ふち歴史
比較年表

※琉球史の慣例により、1372～1878年は中国との朝貢関係を重視して中国年号で表示。

与那覇勢頭豊見親中山朝貢
目黒盛豊見親全島統一
保里天太の2人の息子の相続争い

（15世紀末～16世紀初）
仲宗根豊見親統治時代

才やケ赤蜂征討

仲屋金盛自刃、豊見親称号廃止

人頭税制施行
島津の琉球侵略（1609）

明和の大津波

人頭税制廃止
廃藩置県／琉球処分（1879）
ロベルトソン号難破

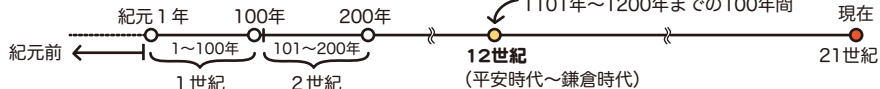
人頭税制廃止

西	曆	1200	1300	(14世紀)	1400	(15世紀)	1500	(16世紀)	1600	1700	1800	1900
宮古島	先史時代	争乱時代			豊見親時代			三間切三頭時代			沖縄県時代	
沖 縄	グスク時代	三山			第一尚氏			第二尚氏（前期）		第二尚氏（後期）		
日 本	鎌倉	南北朝			室町			戦国		安土桃山		
中 国	金	元			明			清			明治 昭和	

世紀って？

キリスト誕生

たとえば、12世紀は、
・1101年～1200年までの100年間



しょう せん そう なん の ひ

ドイツ商船遭難之碑



1873（明治6）年、ドイツ商船ロベルトソン号が台風に遭
い、宮国の沖合に座礁し難破しました。宮国の人々は荒れ狂
う波の中を救助し、34日間手厚くもてなし、帰国させまし
た。皇帝ウイルヘルムⅠ世はこの救助に感激し、1876（明治
9）年、軍艦を派遣して平良市親腰に謝恩碑を建立させまし
た。その後、満60年にあたる1936（昭和11）年に、宮古郡
教育部会が外務省の協力を得て新たに遭難現場に遭難記念碑
を建て、盛大な式典が行われました。

エドワード・ヘルンツハイム船長の航海日記

せん ちょう こう かい にっ き

タイピンサン（宮古島）の人々の行動
は勇気と博愛の精神に満ちていた。私は
感謝と敬愛の念を込めて37日間に及ぶタイ
ピンサンのできごとを語りたい。
この島には博愛の人々がいる。

1873年7月9日

台風に遭遇した。懸命の避難作業を行っ
たが、行方不明者2名、私を含めた大半
の乗員が怪我をした。船もマストと舵を
失い、漂流を余儀なくされている。

7月12日

丸一日漂流し、昨日座礁した。救命ボ
ートで脱出を図るが挫折。絶望の夜、私は
灯りと人影を見た。朝になり、潮の満ち
るのを待って島人のカヌーが近づいて来
た。浜には医師も待機し、手厚く保護さ
れた。私たちは助かった。

7月21日

10日が経った。親切な対応に心も落ち着
き、怪我也徐々に良くなっている。言葉
も少しは通じるようになった。暇に任せ
て机とイスを作った。島人は床で食事を
するが、私たちは座って食べたい。

7月24日

舟の搜索も終わり、幾つかの積み荷が
残ったが、ほとんどが役に立たない。森
で山鳩を見つけた。鉄砲を修理して猟に
出る。お目付役の島人は迷惑そうだった
が、黙認してくれる。6羽しとめた。素

晴らしい夕食が待っている。

8月2日

3人の役人が来て、もうすぐ大きな船が
来る。その船に乗って沖縄本島に行く
か、私たちが操船して中国に向かうか、
決めて欲しいと。私たちは中国に向かう
ことにした。早速操船練習を始める。

8月10日

数日前、私は落馬で怪我をした。一日も
早く出航したいが、怪我が治らないと許
可が下らない。これも島人の親切心なの
だろう。彼らと海岸に出かけ、記念に大
きなヤシの木に名前を刻んだ。

8月17日

いよいよ出航の日が来た。船は私たちの
注文に応じて改造された。昨夜遅くまで
別れを惜しんだ人々が手を振る中、大海
へ乗り出す。さようなら、タイピンサ
ン。さようなら、博愛の人々。

1876年7月22日

帰国後、この事件をドイツ帝国に報告し
た。島人の勇気ある行動、気高く私心な
き博愛の精神が永遠に語り継がれること
を、私は望んでいる。



スカプヤー^{う たき}御^う嶽^{たき}



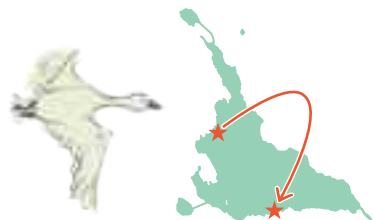
スカプヤー^{う たき}御^う嶽^{たき}のある一帯は宮国元島^{いっ たい みやぐにもとしま}で、シナフカ祭^{まつ}りの根^ね所^{どころ}として住民^{じゅうみん}の尊崇^{そん すう}する御嶽^{う たき}です。この御嶽^{う たき}には、白鳥^{はくちょう}と化^かして飛^とんできた瑠璃壺^{るりつぼ}の伝説^{でんせつ}があり、毎年^{まいとし}9月中乙卯^{が 9 月の 乙卯}から末^{まつ}の3日間^{みつじ}は牛馬^{かうば}も外へ出さず、シナフカ精進^{しょうじん}をして祭り^{まつり}をすることになっています。このあたりの海岸^{かい がん}は、昔^{むかし}の貿易場^{ぼうえきじょう}の面影^{おもかげ}を残^{のこ}しており、宮国元島^{みやくにもとしま}からは約500年前^{やく まえ 500 年前}の中国・明代^{ちゅうごく みんだい}の青磁^{せいじ}の破片^{は ぺん}などが出ています。



むかし に か どりむら ばくがー
昔、荷川取村に湧川まさりやとい
りょうし ひ で
う漁師がいました。ある日、漁に出
つ
てエイを釣ると、そのエイがたちま
うつ じよせい か
ち美しい女性に変わりました。まさ
ひと め ぼ ふうふ ちぎ むす
りやは一目惚れして夫婦の契りを結
おんな うみ もど
びますが、女は海へ戻って行ってし
まいました。

2、3ヶ月たったある日、同じ場
しよ げつ おな ば
所で釣りをしていると、2、3歳の
さい
3人の子もがどこからともなく現
にん こ あらわ
れ、「母の使いで父を龍宮に案内す
はは つか ちち りゅうぐう あんない
るために来ました」と言いました。
き い
まさりやは不審に思いましたが、子
ふ しん おも
どもたちがまさりやの手を取って海
て と
に入ったかと思うと、たちまち金銀
はい きんぎん
ちりばめた楼閣の中にいました。子
るうかく なか
どもたちの母は以前に契りを結んだ
い ぜん
女に間違いなく、親しげな顔でまさ
ま ちが した かお
りやを出迎え、三日三晩、酒や料理
で むか みっ か み ばん さけ りょうり
でもてなしました。別れ際、女は涙
わか ぎわ なみだ
を流し、「これをいつまでも私の形
なが わたし かた
見と違って下さい」と瑠璃色の壺を
み くだ る り いろ つぼ
手渡しました。まさりやは一気に現
て わた いっ き げん
じつ ひ もど き も いえ かえ
実に引き戻された気持ちで家に帰っ
たのですが、龍宮での三日三晩はこ
よ つき ひ す
の世では3年3ヶ月の月日が過ぎて
しん しゅ
いました。瑠璃壺には神酒が入って
の さけ
おり、吞んでも吞んでも酒は尽きる

ことなく口の渇きを癒し、天の甘露
くち かわ いや てん かんろ
のようなおいしい酒でした。これを
おい
呑んだ者は無病息災で長生きしたた
もの むびようそくさい なが い
め、まさりやは家宝として秘密にし
か ほう ひみつ
ていましたが、やがて村中の噂とな
むらじゅう うわさ
り、大勢の村人が壺を見ようと家に
おおい むらびと
押しかけて来ました。まさりやはい
お
つの間にか贅沢な生活に思い上がっ
ま ぜいたく せい かつ おち あ
てわがままになっており、「この酒
あさばん あじ あ
は朝晩とも同じ味で、もう呑み飽き
た」と言いました。そのとたん、壺
はくちょう か そら ま ひがし
は白鳥と化して空に舞い上がり、東
みやぐにむら やー にわ き
の宮国村のスクラブ屋という家の庭木
と すがた け
に留まり、姿を消してしまいまし
た。 うたき ゆらい き
『御獄由来記』より



平良市内の
湧川（ばくがー）まさりや御獄

カーザ井がー



新里元島時代に掘られたと思われる古い井戸ですが、掘った年は不明です。1771年の明和の大津波後、新里元島が現在位置に移ってからも、専用井戸として利用されていました。現代でも水道のない頃の人々の生活を支え、貴重な水資源と

して重宝されてきましたが、1965年の上水道の全面普及に伴い、料飲水源として利用されなくなりました。



もとじま

せつ

元島とさまざまな説



「倭寇」ってなあに？

「倭寇」とは、13～16世紀にかけて、朝鮮半島や中国大陸沿岸などで活動した、略奪行為や密貿易などを行った海賊のことです。この倭寇の歴史を大きく見ると、前期と後期に分けることができ、上比屋山遺跡と同時期の15世紀までの前期倭寇は、主に瀬戸内海・北九州を本拠とし、た日本人が多かったと言われてい



しん ざと ほう ねん さい

新里の豊年祭



きゅうれき がつ ひ おこな ぎょうじ し し まい ぼう ふ
旧暦の6月のつちの日に行われる行事で、獅子舞、棒振
り、女踊り（抱き踊りと投げ踊り）、および綱引きなどで構
成されています。豊年祭の起源については不明ですが、1771
年の明和の大津波によって壊滅的な打撃を受けた集落が、海
岸近くにあった元島から現在の位置に集落を建て、また、伊
良部島などから移住してきた人々が信
仰を築く際、五穀豊穰を感謝し、集落
の発展を祈願して始めたという説があ
ります。



ツマグロゼミ *Nipponosemia terminalis* (MATSUMURA1913)



せ なか い る び み ょ う ち が
背中の色が微妙に違う

そうしよくしせつ
増殖施設

ツマグロゼミは、中国、台湾、八重山諸島、宮古島に分布し、宮古島を北限とします。宮古島では、砂川・友利地区の一部と、上野地区の一部にしかいません。ふつつ、屋敷に植えられるイスノキに生息していますが、自然林に近いアカギ、リュウキュウガキ、クロヨナなどにも自然分布しています。羽の先端部分に小さな暗い色の模様があり、頭を下にしてとまる習性があります。新里にあるツマグロゼミ増殖施設は、ツマグロゼミを天敵から保護し、死亡率が高い孵化まもない幼虫の生存率を高め、増殖することを目的に設置されました。鉄筋構造で二重の金網が張られ、内部はコンクリートで4つに区切られ、土壌病害虫などが発生しても被害を最小限に抑えられるように配慮されています。



う うに しゅう う たき
御船の親御嶽



『宮古島記事仕次』に、「野崎満さりや南の島より逃れ帰
りし事」と題する記事があります。船頭だった御船の親は遭
難した南の島あふらで殺されてしまいます。生き残った船員
が持ち帰った頭蓋骨は村人によってミャーカ（墓）に納めら
れ、後に「御船の親御嶽」と呼ばれるようになりました。

あふら島は、台湾の東の洋上に浮か
ぶ小さな「緑島（火焼島）」を指すの
ことですが、緑島には同様な伝承な
どはないといわれています。



御船の親御嶽の由来

昔、新里村に御船の親という船頭
がいました。ある日、琉球へ貢物を運
んだ帰りに嵐に遭い、「アホラ」とい
う南の島に流れ着きました。島の
人々は、御船の親や船員たちを捕ま
えて檻に入れ、「早く大きくなれ。早
く太れ。」と食事を与えました。実は、
アホラには人の肉を食べる風習があ
り、外国人が漂着すると、彼らを捕ま
えて食べていたのです。船員たちは、
殺されてしまうと覚悟していましたが、
一人だけ捕まらなかった者がいま
しました。それは、野崎真佐利という若
者でした。彼は、密かに島の女と親し
くなり結婚したので、捕らえられな

御船の親の妻ブナコイの話

御船の親にはブナコイという美し
い妻がいました。ブナコイは御船の
親がアホラ島で殺されてからという
もの、悲しみに食事も喉を通らず毎
日嘆いていました。これを見てかわ
いそうに思ったブナコイの両親は、
隣村の砂川戸佐と結婚させることに
しました。ところがブナコイは、砂
川戸佐と夫婦になっても、彼に隠れ
て御船の親を恋い慕い唄っていまし

かったのです。いよいよ自分が殺さ
れることを悟った御船の親は、野崎
真佐利を呼び出して、「お前が生きて
宮古島へ帰れることがあれば、私の
頭蓋骨を故郷へ持ち帰り祀ってほし
い」と言い残し、数日後、御船の親は
アホラの人に殺されてしまいます。
野崎真佐利は御船の親との約束どお
り、彼の頭蓋骨を持ち出して小舟に
乗りアホラの島から逃げ出しまし
た。途中、アホラの島人がものすごい
早さで船をこぎ追いかけてきました
が、なんとか逃げ切り宮古島へ帰り
着きました。そして、新里村の人々に
これまでのことを全て話し、御船の
親の遺言のとおり墓をつくり、祀り
ました。

た。そのことを知った砂川戸佐は嫉
妬のあまり逆上し、ブナコイの髪を
掴んで散々に蹴ったので、ブナコイ
はそのまま息絶えてしまいました。
我に返った砂川戸佐は自分のしたこ
とを嘆き、ウナウワ坂の海の見渡せ
る場所にブナコイを葬りました。悲
しい運命にあったブナコイの魂は、
シギラ崎や海岸や野山をさまよい
人々に災いをもたらしたため、この
霊を鎮めるためにトゥムイ御嶽に招
き祀ったということです。

ぶん か ざい たいけい す
文化財の体系図

文化財

文化財の種類

特に価値の高いもの

とくに重要なもの

重要なもの

特に必要のあるもの

保存と活用が特に必要なもの

保存できるように考える必要のあるもの

有形文化財

建造物
美術工芸品 工芸品、絵画、彫刻、書跡、典籍、古文書、考古資料、歴史資料など、形のあるもの

指定

重要文化財

指定

国宝

世界から見ても価値が高い、国の宝

登録

登録有形文化財

無形文化財

演劇、音楽、工芸技術などの、形のない、人間の「わざ」そのもの

指定

重要無形文化財

選択

記録や作成などを考える必要のある無形文化財

民俗文化財

有形民俗文化財 無形民俗文化財に使われる衣裳、器具、家屋など
無形民俗文化財 衣食住、生業、信仰、年中行事などに関する風俗習慣、民俗芸能、民俗技術

指定

重要有形民俗文化財

重要無形民俗文化財

登録

登録有形民俗文化財

選択

記録や作成などを考える必要のある無形民俗文化財

記念物

遺跡 貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅など
名勝地 庭園、橋梁、渓谷、海浜、山岳など
動物
植物
地質鉱物

指定

史跡

指定

特別史跡

名勝

指定

特別名勝

天然記念物

指定

特別天然記念物

登録

登録記念物

文化的景観

地域の人々の生活または生業及び地域の風土によって形成された景観地 棚田、里山、用水路など

都道府県または市町村の申し出に基づいて選定

重要文化的景観

伝統的建造物群

宿場町、城下町、農漁村など

市町村が決定

伝統的建造物群保存地区

選定

重要伝統的建造物群保存地区

文化財の保存技術

選定

選定保存技術

文化財ではないが、保護の対象となっているもの。文化財の保存に必要な材料や用具の生産制作、修理・修復の技術など

埋蔵文化財

土地に埋まっている文化財

それぞれの文化財の一例

※宮古島市や、沖縄県、九州にある文化財の一例

有形文化財

かたち
形のあるもの

形の
ないもの

無形文化財

重要文化財

指定



豊見親墓3基
(とうみやばか3き)

指定



治丸 / 沖縄県
(じがねまる / おきなわけん)

登録

登録有形文化財



旧西中共同製糖場煙突
(きゅうにしななかきようどう
せいとちゅうきようせんとう)

重要無形文化財

指定



宮古上布
(みやこじょうふ)

重要有形民俗文化財



ウイプヤムトウ
の祭場 (さいじょう)

民俗文化財

指定



登録

重要無形民俗文化財



宮古島のパートウ

登録有形民俗文化財



竹富島の生活用品 842 点 /
沖縄県・竹富島 (たけとみじま
のせいかつようぐ / たけとみじま)

文化財

記念物

指定



史跡
遠見番所
(とあみばんじよ)



特別史跡
吉野ヶ里遺跡 / 佐賀県
(よしのがのいせき / さがけん)

登録

登録記念物



仲本氏庭園 / 沖縄県 石垣島
(なかもととしていえん
/ いしがきじま)

名勝



東平安名崎
(ひがしへんなさき)

特別名勝



識名園 / 沖縄県
(しきなえん)

けしき
景色の
よいところ

きちよう しぜん
貴重な自然を
記念するもの

文化的
景観

指定

重要文化的景観



別府の湯けむり・温泉地
/ 大分県 (べつふの ゆけむり
おんせんち / おおいたけん)

伝統的
建造物群

れきしてき
歴史的なまちなみ
や景色

伝統的建造物
群保存地区

指定



竹富島の農村集落 / 沖縄県 竹富島
(たけとみじまの りゅうそんしゅうらく)

天然記念物



オカヤドカリ

特別天然記念物



イリオモテヤマネコ

選定保存技術



芋麻糸手績み
(ちまいとてうみ)

文化財の
保存に
大事な技術

埋蔵文化財



住屋遺跡
(すまいいせき)

う
埋まっ
ているもの

わたし ぶん か ざい
私たちの文化財です

たい せつ
大切にしましょう

ぶん か ざい きょ か む だん げんじょうへんこう
文化財を許可なく無断で現状変更する
ことは法律で禁止されています。



宮古島市 neo 歴史文化ロード 綾道 (宮国・新里コース)

発行 平成 27 年 3 月

編集・発行 宮古島市教育委員会

〒906-0103 沖縄県宮古島市城辺字福里 600 番地 1

TEL 0980-77-4947 FAX 0980-77-4957

イラスト・デザイン 山田 光

平成 26 年度宮古島市 neo 歴史文化ロード整備事業

